

第三回LOM取材 社団法人 今市青年会議所

輝く関東の絆醸成委員会 第三回目のLOM事業取材は7月18日(日) **社団法人 今市青年会議所**にて創立30周年記念7月例会共有推進事業 「元気up' KIZUNAプロジェクト」～そだてる未来の宝物～を日光だいや川公園にて取材致しました。

社団法人 今市青年会議所 <http://www.sunfield.ne.jp/~imaiti/>

「社団法人今市青年会議所は、1981年に「揚々と聳え立つ杉並木と共に歴史を重ねてきた人口5万人余の今市の地に、我ら次代をになう青年に与えられた使命を達成すべく、英知と勇気と情熱を持って、市民の理解を求め、地域社会の調和と産業基盤の育成を願い、より豊かな活力漲る郷土を築き上げるため、若き力を燃焼させることを誓い、ここに今市青年会議所創立を宣言する。」という宣言のもと、全国で685番目、県内12番目の青年会議所として誕生しました。今年2010年、30周年の節目を迎えるにあたり記念式典・事業を企画開催致しました。」

スローガン「己を磨き、まちづくりに挑もう!Jayceeの自己変革が地域を変える」



計画書より事業目的の抜粋

現在、社会環境の変化から、他者とのコミュニケーション不足や地域コミュニティが失われつつある。それは、子ども達が成長する過程で自然と身に付けたたくさんのことを学ぶ場所が少なくなっていることを意味する。

この問題を解決するための重要かつ基本的な環境・心構えとして

- ・大人と子どもの双方向かつ積極的なコミュニケーション
- ・年長者として伝えるべきものの継承

などがあげられる。言いかえれば、大人と子どもが共に育ちあう共育の考え方が大切だと考える。「大人の責任」 本例会では、地域共育における「大人の責任」を実践し、大人と子どもが積極的に関わることによって生まれるコミュニケーションの大切さを実感することを目的とする。これを普段から意識することで、近い将来、子ども達を育むより良い環境が創造できること、子ども達にとっての「頼れる大人」「自分を見守る大人」が増えることを期待する。



30周年記念事業の例会（第2弾）。本事業を(社)今市青年会議所の取り組みの一つとして市民及び地域社会へ発信する。手法のひとつとして例年開催されている今市JCの看板事業「元気u p' ナチュラルプロジェクト」を活用する。本事業は市民及び参加団体からの評判もよく、並びに目的達成のための重要な要素として期待できる。

また、本年の創立30周年及び数年後の日光JCとの合併を控え、現在までの今市JCのもつ、意義のある事業の継承、再発見という観点も考慮し全体構成をする。

当LOMメンバーには(社)今市青年会議所の組織力や団結力を企画、運営の面から感じてもらおうと共に、大人としての責任を、JCとして、ひとりの大人として実践することを目的とする



当日は天候にも恵まれ、来場者も多く、まさに目的に沿った画期的な事業でありました。



マリオ



二宮金二郎の背中にクイズが・・・わかりますか？



大盛況の会場



社団法人今市青年会議所
第30代理事長 渡邊 康浩 君【中央】
本事業実委員長 石岡 崇弘 君【右】